



曾谷の風

学校教育目標「『ゆめ あすから』チャレンジする子どもたち」

市川市立曾谷小学校
校長 田部井 伸郎

[→爽風学園ブログはこちら](#)

[→学校ホームページはこちら](#)

曾谷っ子の合言葉 「元気・本気・勇気」～3つのキを育てよう～



ご来校ありがとうございました

先月 29 日（土）のオープンスクールデーにはたくさんの来校をいただき、ありがとうございました。お気づきになった点につきましては、お気軽にお聞かせください。よりよい学校運営に活かしますので、どうぞよろしくお願いいたします。

いじめ・人とのかかわりを考えよう

はじめに:さて、全国のいじめ件数をご存じですか？70 万件弱で（令和 4 年度。前年度の数字が翌年の秋に発表）前年比 10%以上増ですので、今年度は 70 万件を超えると予想されます。いじめは年々増え続け、大きな問題となっているのはご存じのとおりです。

年々増加していることについては、今の子どもたちの人間関係やコミュニケーションに問題があるのではなく、むしろ教育現場において、いじめがより認識されやすくなっているためと考えられます。しかしながら、自分で命を絶つ児童生徒がいる以上、全く楽観視できないことに間違いありません。

大人は何ができる?:それでは、「いじめについて、あなたは何ができますか？」と聞かれたらなんと答えますか？「いじめは打つ手がない」、「いじめなんて昔からある」、「いじめに負けない強い心を持たせる」などが多い答えのようです。しかしながら、これらの回答は果たして妥当でしょうか？

いじめの問題に一石を投じると言えるのが「[学校支援実践講座](#)」です。これは、一言で言えば、いじめの未然防止に向けて、学校と地域住民が力を合わせて取り組むというものです。全国を見ても、市川市独自の取組で、大好評を得ています。

特徴は、交流会という話し合いを行います。話す内容は、千葉大学で教鞭を取られ、いじめの専門家でもある藤川教授と市川市と一緒に作成した、架空事例についてです。数名の子どもたちのグループに 1 名の地域支援者が入って、子どもたちの考えを受容的に聞いていき、子どもたちがいじめやいじめに至ってしまうかもしれない人間関係について考える機会とします（考え、話し合いはしますが、決して最終的な結論は出しませんし、こうなさいという指導もしません）。

この地域支援者を、[市教委主催の実践講座](#)では市内各所から募りますが、曾谷小では、曾谷小学区の地域住民から募って、曾谷小学校独自で実施するものです。コンセプトは、「曾谷小の子どもたちは、曾谷の大人が育てる。曾谷小の子どもたちのピンチは、曾谷の大人たちが守る！」です。オープンスクールデーでは、3 年生の 2 クラスで授業を展開しました。本校の[地域学校協働活動推進員](#)の石橋さんをお願いし、曾谷小学校の子どもたちのためにご協力いただける方を集めていただきました。この日は現役の保護者の方はお子さんの授業があるので、かつて本校にお子さんを通わせていた OB・OG の皆さんでチームを組みました。

当日の授業：地域支援者の 8 名が前に並ぶと、「あっ、知ってる」の声。登下校の見守り活動、山王公園での活動、地域学校協働活動推進員、お店経営、学校の至近に在住、放課後子ども教室スタッフなど、子どもに割と近い方ばかり。



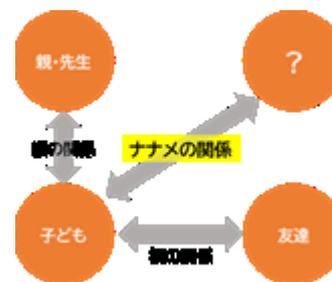
この日に扱った架空事例の概要は、「3年生の仲良し3人組。1人は背が低く、2人に『おいチビ、行こうぜ!』と声を掛けられ、ニコニコして後をついていく様子が見られる。周りの子は、呼び方が気になっており、このままでよいのだろうか?とと思っている」という内容です。



この事例のポイントは、「本人にはどうしようもない身体的特徴を言われるのは辛い可能性がある」、「いじめといじりは区別がつきにくい」、「何もしないと問題が深刻化する可能性がある」、「気になる人が他の人と相談しながら何か行動を起こすことが求められる」などです。

3年生の子どもたちは本当によく考え、自分の意見を出し、たくさんの子が手を挙げて発表していて感心しました。また、自分のグループでは出ない意見が、他のグループから発表され、そんな見方があったか、と目から鱗だったはず。

まとめ:地域の方を、子どもにとっての「**ナナメの関係**」、保護者・学校の先生が「**縦の関係**」、同級生の友達を「**横の関係**」と考えます。縦の関係には「これを言ったら怒られるかな?」と考え、横の関係には「カッコつけて」本音を言いにくいことがあります。ナナメの地域支援者には、本音を話すことができると考えられています。



発表する子どもたちの姿に担任の先生からは、「こんなに意見を出せる子だったのかと感心した」、「違った面が見られて嬉しい」、子どもたちからは「自分の意見が言えて満足」、「意見をすごく認めてくれて嬉しかった」との感想がありました。

また、事後の地域支援者の反省会では、「子どもの役に立てて良かった」、「終わった後お礼を言われて嬉しかった」、「支援者同士で知り合いが増えた」という感想がありました。つまり、関わる者すべてにメリットのある取組です。

1回やれば、即いじめがなくなるとか、今後も起きなくなるとかいうものではないかもしれませんが、数を重ねるうちに必ず違いが出てくるものと考えます。曾谷小では他学年での実施も考えています（6年生は秋に市教委主催で実施）。

また、地域支援者の皆さんは曾谷地域在住ですので、子どもたちにとって地域に顔見知りが増えること、そして自分の地域には自分たちを思っている地域の方がいるんだと知れたことが大きいと考えます。実際、道などで顔を合わせ、挨拶や言葉を交わす機会が生まれるなら、本当に素敵なことだと思います。

この取組に興味を持たれ、地域支援者として参加したい方（**市教委主催**なら他の学校でも、曾谷小独自ならお子さん以外の学年で）がいらっしゃいましたら、地域学校協働活動推進員の石橋さん・花田さん、または校長までご連絡ください。